

第3章 研究のまとめと課題

1. 研究のまとめ

(1) 「学んだこと」について

各学年の事例から見取った「学んだこと」を一覧表にまとめた（別紙 p99～100）。その一覧表、及び各学年の事例から見てきたことを考察する。

① 身体的側面に関して

3歳児では、まず、「体の使い方」「飛び方」といった、からだそのものの使い方を学んでいる。加えて、4歳児では「ぶら下がる」「足を引っ掛ける」といった手や足の使い方を学んでいる。さらに、5歳児になると、手先や指先の細かい動きの「学び」も加わってきている。このように学年進行とともに、からだ全体を使った「学び」に加えて、からだの細部を使った「学び」が多くなっていることが見て取れる。

また、「力のかけ具合」「タイミング」「バランス」といった感覚的なことも数多く学んでいることが見て取れる。例えば、3歳児では「力のかけ具合」や「ジャンプするタイミング」、4歳児では「ぶら下がる感覚」や「重心」「バランス」、さらに5歳児では、「ボールを足でコントロールする感覚」や「力の抜き加減」を学んでいる。これらは、何度も同じことを繰り返す中で身につけたり、何度も失敗を繰り返す中で、ちょうどいいタイミングや加減といったからだ感覚をみがいているといえる。さらに、このことは、危険予知能力を育むことにつながっていると考えられる。

② 知的側面に関して

ものとのかかわりという視点で見ると、3歳児は、ものの使い方やつくり方といった一つ一つの技術や方法を学んでいる。4歳児になると、それらに加えて、ものの性質そのものや特性を学んでいることが見えてくる。そして、5歳児になると、ものとももの間隔や角度といった2つのものの関係性の視点が増えてくる。さらに、「摩擦」や「力の強さ」といった目には見えないものを科学的に捉える力が芽生えていることが見える。

学年が進むにつれ、物事を関係づけて考えたり、因果関係に気づいたりすることができるようになっていることがわかる。

③ 心的側面に関して

子どもたちは遊びの中で、「満足感」「不満足感」「虚しさ」「楽しさ」などの喜怒哀楽を繰り返し感じている。

その中でも、「満足感」がどの学年にも共通して多い。3歳児は、「自分が感じる満足感」がほとんどであるのに対して、4、5歳児では、「友達と一緒に満足感」や「みんなでやり遂

げた満足感」を多く味わっていることが見て取れる。幼児らの生活において、「満足感」や「安心感」など、心の安定が生活の基盤になっていることは明らかである。

さらに、その基盤をもとに、友達とのかかわりの中で、「怒り」「虚しさ」「悔しさ」などの葛藤を繰り返している。その中で、折り合いのつけ方を学んでいることが見えてくる。中でも5歳児は、最後まであきらめずにやり通す「粘り強さ」も学んでいる。目的意識や見通しなどを具体的にイメージすることができる5歳児ならではの学びと言える。

④ 社会的側面に関して

3歳児では、教師や友達と同じことをする「楽しさ」を学んでいることが見て取れる。そのことは、友達関係を広げたり、つなげたりするベースになっていることは言うまでもない。4歳児は、それに加えて、同じイメージをもったり、一緒に遊びの場をつくったりと、友達や教師とかかわる中で「楽しさ」を味わっている。さらに5歳児になると、伝え合ったり、協力したり、助け合ったりしながら、友達と同じ目的に向かって、創り上げる「楽しさ」を学んでいる。「受容」「公平さ」「折り合い」などは、5歳児ならではの「学び」と言える。

これらのことは、本園の「友達とかかわり合いながら創る生活」の研究（H11～H16）の中で導き出してきた各学年スローガン

3歳児 教師とかかわりながら自分が創る自分の生活

4歳児 教師や友達とかかわりながら自分が創る自分達の生活

5歳児 友達や教師とかかわり合いながら自分達が創る自分達の生活を裏付けていると言える。

(2) 教師の援助について

今年度、各事例における教師の援助を、「直接体験につながる援助」と「感じたり学んだりすることにつながる援助」の2つに分けて位置づけてきた。一覧にしたところ（p99～100）、各学年の特徴が見えてきた。

3歳児では、「モデル」という援助が多く見られる。それは、初めての集団生活の中で、教師がモデルとなって同じ体験をすることが、生活の基盤となるからである。

4歳児では、直接体験をしたり、感じたり学んだりするために、多くの援助がなされている。その中でも特に「提示」「揺さぶり」「問いかけ」といった援助が多く見られる。それは、4歳児にとって、からだをいっぱい使ってとにかくやってみることが大事であり、やってみる中に多くの「学び」があるからだと考える。加えて、「イメージの共有」や「イメージの言語化」という援助が見られる。4歳児では、友達関係をつくるために、友達と同じイメージをもって遊ぶことが重要だと教師が考えているからである。

5歳児では、感じたり学んだりすることにつながる援助が多い。それは、5歳児になると、3、4歳児からの積み重ねで、遊びをつくったり遊び続けたりすることを自ら行うことが多い

からだと考える。そのため、「言語化」「課題設定」「思考を促す」など、遊びの目的を意識化させたり、遊びを方向づけたりするような援助が多くなる。また、「仲立ち」「友達を巻き込む」といった集の学びを意識した援助が多く見られる。それは、友達関係をつなげたり、広めたりしながら、友達とかかわり合って、より生活が楽しくなることを教師が願っているからである。

全学年を通して、学びにつながる援助には、「共感」と「評価」が多くなっている。教師は、幼児らが見い出した価値観を大切にしたり、意味づけようとしていたりしているからである。

2. 今後の課題

今年度、事例から見取った「学んだこと」を4つの側面に分類し、考察してきた。その結果、幼児らが遊びの中で4つの側面の様々なことを学んでいることは勿論、学年による「学び」の傾向が見えてきた。しかし、まだまだデータが少なく、一般化できるものではない。そこで、来年度も引き続き事例を収集していく必要性を感じた。なお、4つの側面に関しては、今後も検証を続けていきたい。

教師の援助に関しては、今年度は「直接体験につながる援助」と「感じたり学んだりすることにつながる援助」の2つの援助に分けて考察してきた。しかし、まだ不十分なので吟味していきたい。

1. 「学び」につながる4つの側面

※表の中の数字はその項目が出てきた回数を表している

	身体的側面	知的側面	心的側面	社会的側面
3歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・体の使い方 ・力のかけ具合 ・ジャンプするタイミング ・飛び方 ・身体表現 	<ul style="list-style-type: none"> ・道具の使い方 ・柱と柱の間隔 ・絵の描き方 ・面のつくり方 ・洋服のつくり方 	<ul style="list-style-type: none"> ・安心感 ・満足感4 ・不安感 ・不満足感 ・自尊心 ・自負心 ・音楽に合わせて踊る楽しさ 	<ul style="list-style-type: none"> ・好奇心 ・期待感 ・自信 ・言葉と行為の一体感 ・楽しい雰囲気 ・雰囲気を楽しむ ・友達と一緒に作る楽しさ ・ルール(合図に合わせて遊ぶ) ・ルール(順番) ・役割分担 ・みんなで遊ぶ楽しさ
4歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・ロープにぶら下がる感覚 ・足を引っ掛けるタイミング ・足の引っ掛け方 ・体の重心のかけ方 ・バランスのととり方 ・飛び移る時の体の使い方 ・床の上を滑る面白さ ・痛み ・靴のベルトの加減、調節 ・回転する楽しさ 	<ul style="list-style-type: none"> ・水の性質 ・ガムテープの性質 ・セロテープの性質 ・竹の性質 ・土の性質 ・マルチパネの材質 ・イメージ合わせた遊びの場の変化 ・多面的な見方 	<ul style="list-style-type: none"> ・失敗感3 ・満足感4 ・成就感2 ・疑問 ・虚しさ ・安堵感 ・不満足感 ・音楽に合わせて滑る楽しさ ・室内遊びの楽しさ ・製作の楽しさ ・寛容 	<ul style="list-style-type: none"> ・成功感2 ・達成感 ・怒り2 ・焦燥感 ・悲しみ ・喜び ・期待感 ・イメージを共有する楽しさ2 ・イメージにあわせた役割分担 ・協力して場をつくること ・友達と一緒に遊ぶ一体感3 ・友達のかかわり方 ・譲り合って道具を使うこと ・遊びからかたづけへの切り替え ・みんなで一緒に滑る楽しさ ・ごっこ遊びの楽しさ ・相手に合わせた柔軟性
5歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・身体の支え方 ・バットの持ち方 ・体さばき ・力の抜き加減 ・紙飛行機を手放すタイミング ・指先感覚 ・コマの紐の巻き方 ・コマの回し方 ・ボールを足でコントロールする感覚 ・二十日大根のおいしさ ・おにぎりのつくり方 ・たくさん食べた満足感 	<ul style="list-style-type: none"> ・野球のルール ・紙飛行機の折り方 ・積み木が倒れるときの間隔の加減 ・摩擦と抵抗の関係 ・物の大きさと力の強さ ・勝つための方法 ・といとどの角度と間隔 ・おにぎりの使い方 ・苦手な野菜の食べ方 	<ul style="list-style-type: none"> ・鉄棒遊びのおもしろさ ・失敗感4 ・粘り強さ3 ・達成感2 ・不満足感4 ・満足感8 ・疎外感 ・受け止めてもらえたいし ・振り返り ・悔しさ2 ・ドッジボールのおもしろさ ・自信3 	<ul style="list-style-type: none"> ・ルールの重要性 ・ルールの遵守 ・助け合い ・協力 ・伝え方2 ・一体感2 ・助けてもらえたいし ・相手に伝わる話し方 ・受容 ・役割分担 ・公平さ ・折り合い ・共に食べる一体感 ・みんなで食べるおいしさ

2. 教師の援助

※表の中の数字はその項目が出てきた回数を表している

	直接体験することにつながる援助	感じたり学んだりすることにつながる援助
3歳児	<ul style="list-style-type: none"> 見守り2 モデル 提案 誘い 促し2 仲立ち ルールの設定 励まし 	<ul style="list-style-type: none"> 見守り5 モデル 方向性 意欲付け モデル 提示2 ルール 励まし2 共感5 評価4
4歳児	<ul style="list-style-type: none"> 見守り6 尊重 受け止め 提案2 参加2 手本 モデル 提示 誘い 助言 提供 促し 声かけ イメージの共有 問題提起 問題意識をもたせる 挿さぶり 切り返し 問い かけ 確認2 仲立ち2 認め 共感 	<ul style="list-style-type: none"> 見守り6 教示、モデル 励まし2 聞く 推察 代弁3 参加 提示 声かけ2 確認2 挿さぶり イメージの共有 イメージの言語化 言語による明確化 位置づけ2 意識づけ2 意欲づけ2 方向付け 制止 問いかけ 共感9 評価5 認め
5歳児	<ul style="list-style-type: none"> 参加6 見守り2 提案3 モデル2 雰囲気の盛り上げ 確認 	<ul style="list-style-type: none"> 思考を促す2 受容2 言語化 仲立ち3 モデル2 課題設定 友達を巻き込む2 指示 強化 提案 委ねる2 教示2 共感6 評価6